

[印象記]

第18回新潟医療福祉学会学術集会のポスターセッションに参加して

新潟医療福祉大学 医療技術学部 視機能科学科

助手 多々良俊哉



私は2018年10月27日に開催された第18回新潟医療福祉学会に筆頭演者且つスタッフとして参加しました。今回のポスター発表の演題数は81で、過去最大の発表数であったと聞きました。そのため13時40分14時40分からのポスターセッションは大変盛会でした。

た。

多数の発表の中でも会頭賞を受賞されました井口華穂さんの「月経周期と技能トレーニングの関係性」のご発表には大変感銘を受けました。この発表ではエストロゲン濃度が高い排卵初期の方が、技能定着効果が高いことが示されていました。アスリートのトレーニングに関して日々新たな方法が見いだされる昨今において、本学から新たな知見が発表されることには感嘆いたしました。東京オリンピックが近づき女性アスリートの活躍にも期待がなされている中、本発表に基づいたトレーニング法に、今後注目がなされるのではないかと感じました。また、伊藤滯奈さんが発表されていました、「自分が太っていると思う高校生の特徴－女子生徒の場合－」は興味深く聴かせていただきました。この発表では対象の女子生徒の内、太っていると思う群の平均BMIは 20.4 ± 1.7 kg/m²であり、標準体重のBMI 22.0 kg/m²より下回っていることが発表されていました。この結果に対する考察として、生活を共にしている自分が太っていると思わない群（BMI平均 18.8 ± 1.3 kg/m²）に近いシルエットでないと「自分は太っている」と認識する傾向があることが推測されていました。この痩せ型の体形を好む傾向は骨粗鬆症などの疾患の原因にもつながることから、今後の対策が必要なテーマであると感じました。こういった発表は私が普段参加する眼科関連の学会では聴くことのできない発表でした。私は本学に赴任して2年目で初めて

新潟医療福祉学会学術集会に参加しましたが、本学会に参加することで、あらゆる分野の専門家の意見を聴くことができました。

最後に私事で恐縮ですが、本学会のポスター発表にて奨励賞を受賞することが出来ました。今回初めて学会で賞を得ることができ、今後の研究活動への意欲がさらに増しました。新潟医療福祉学会学術集会では毎回、会頭賞1名、奨励賞5名程度が選出されます。若手研究者の方々は学会賞受賞を目指し本学会で発表されることを強くお勧めします。



写真1. ポスターセッションにて発表する視機能科学科4年次生



写真2. 盛会なポスター発表会場の様子